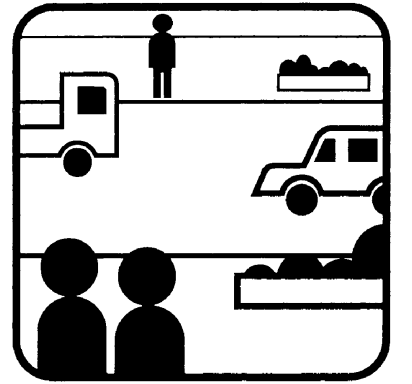
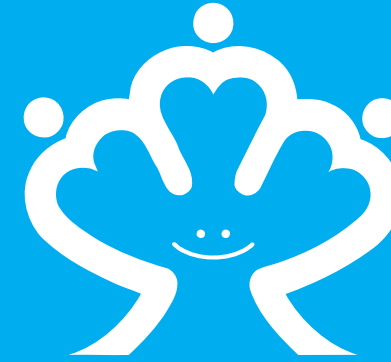


3

道路



1 歩道等

■基本的な考え方■

歩道等は高齢者、身体障害者等を含む歩行者にとっての移動の動線として重要なものである。
歩道が連続的に整備され、その上で、安全が確保され、さらに通行上の快適性についても配慮することが望まれる。

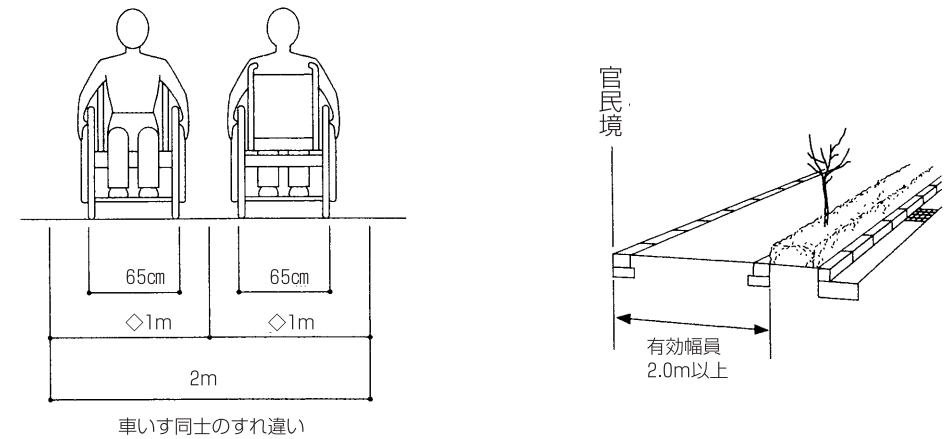
整備基準

1 歩道、自転車歩行者道その他これらに類するもの(以下「歩道等」という。)

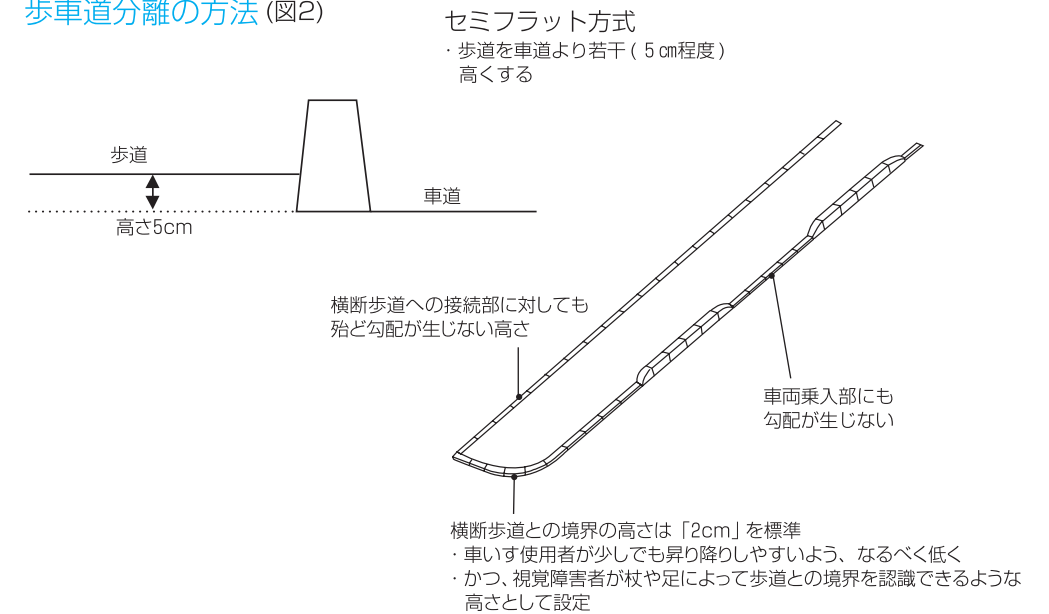
歩道等を設ける場合においては、次に定める構造とすること。

- (1) 歩道等の有効幅員は、2メートル(自転車歩行者道の有効幅員は、3メートル)以上とすること。
- (2) 路面は、水はけがよく、粗面とし、又は滑りにくい材料で平坦に仕上げること。
- (3) 縁石、防護柵、植樹帯その他これらに類する工作物により車道と明確に分離すること。
- (4) セミフラット形式を標準とすること。
- (5) 横断こう配は、1/パーセント以下とすること。ただし、沿道の状況その他の特別な理由によりやむを得ない場合には、2/パーセント以下とすることができる。
- (6) 次の部分の段差を切り下げること。
 - ア 歩道等の巻き込み部分
 - イ 横断歩道と接する部分
 - ウ 横断歩道が中央分離帯を横切る部分
- (7) 段差の切下げ部分のすりつけこう配は、5/パーセント以下とすること。
- (8) 切下げ部分の段差は、2センチメートルを標準とし、角をとること。
- (9) 排水溝を設ける場合においては、車いすのキャスター、松葉杖等が落ち込まない構造の溝ぶたを設けること。
- (10) 次に掲げる歩道等には、線状ブロック及び点状ブロック(それぞれ黄色その他の周囲の路面との色の明度の差又は輝度比が大きいこと等により容易に識別できるブロック(縦横それぞれ30センチメートルでJIS(工業標準化法(昭和24年法律第185号)第17条第1項の日本工業規格をいう。)T9251に適合するものに限る。)に限る。以下この表において同じ。)を敷設すること。
 - ア 市街地を形成している地域の歩道等
 - イ 市街地以外で視覚障害者の歩行が多い歩道等及び公共交通機関の駅及び停留所と視覚障害者の利用が多い施設を結ぶ歩道等

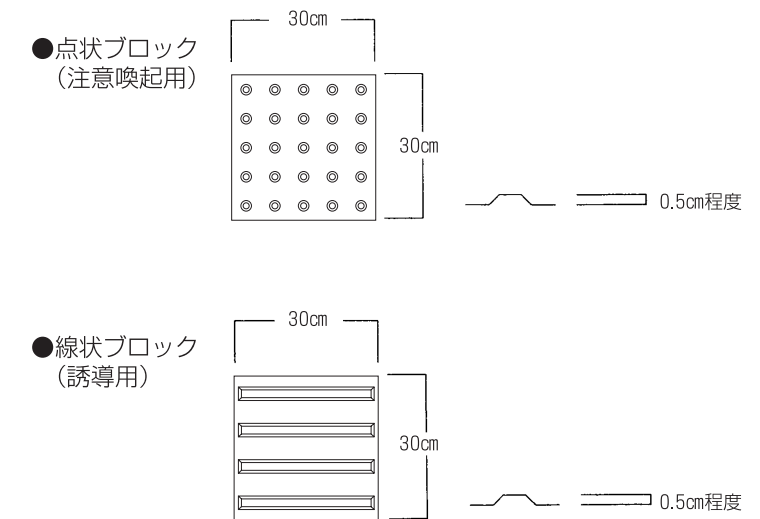
歩道幅員決定の根拠 (図1)



歩車道分離の方法 (図2)



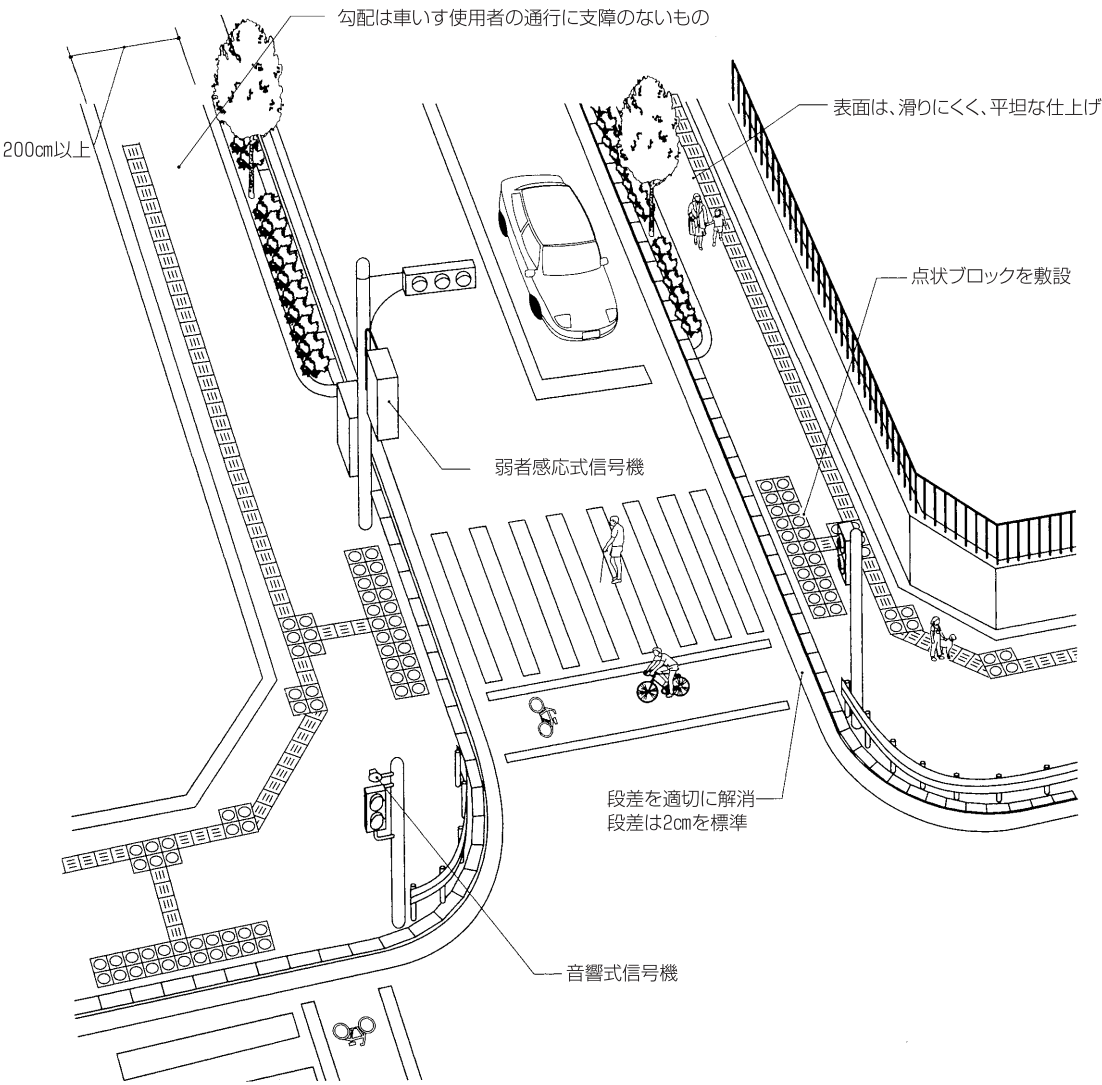
視覚障害者誘導用ブロック (図3)



整備基準の解説	
項 目	解 説
(1)幅員	○歩道の有効幅員2mは、車乗入スロープ部を除く水平部で車いす同士がすれ違える寸法である。 ○自転車歩行者道の有効幅員3mは、車いす同士がすれ違える幅員に自転車の通行を考慮した寸法である。 ⇒図 1 参照
(3)歩道と車道の分離	○歩道と車道を分離する方法には、マウントアップ方式、セミフラット方式及びフラット方式があるが、セミフラット方式で整備する。 ○歩道と車道を分離するものは、縁石、防護柵、植樹帯、縁石と防護柵、縁石と植樹帯等がある。 ⇒図 2 参照
(7)すりつけ こう配	○5% (1/20) 以下とし、こう配の方向は、歩行者の通行動線の方向と一致させる。
(8)段差	○視覚障害者がつま先で歩道と車道等の境界であることを知覚するには、段差が2cm程度必要である。また、車いす使用者が通過する際に段差が2cm以下で面取りを施せば支障にならない寸法である。
(9)溝ぶたの 構造	○①格子型で細目タイプ(ピッチ12.5mm又は15mm×100mm程度)②格子型で隙間の最大寸法が短辺方向9mm以下③格子型でピッチが短辺方向20mm以下で長辺方向50mm以下④丸穴あき型で、穴直径の最大寸法が20mm以下で表面が滑りにくいもの等とし、長辺方向が進行方向と直角になるように配置する。
(10)視覚障害者 誘導用ブロック	○線状ブロックと点状ブロックの二種類とする。 ⇒図 3 参照
(設置場所及び 設置方法)	○「視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説」(社)日本道路協会)及び「視覚障害者誘導用ブロック設置基準」(仙台市道路部策定)を準用する。
(形状)	○JIS T9251に適合するものを使用する。
(材質)	○十分な強度を有し、滑りにくく、歩行性、耐久性、耐磨耗性に優れたものとするとともに、退色、輝度の低下が少ない素材とする。 ○色彩については、他の部分の色と対比効果(輝度比または明度比により判断)が発揮できるようにし、原則として黄色を用い、状況に応じて適切なものを選択する。

配慮事項	
項 目	解 説
建築限界の確保	○安心して通行できる歩行空間を確保するために、歩道上には高さ2.5m以上の空間を連続して確保する。 ⇒図 4 参照

歩道の整備例



有効幅員の考え方 (図4)

